

## Aaron Aponick 教授 講演会報告

### ～ StackPhos 配位子：合成と不斉反応への展開～



目で見ると  
海外講師講演会

安田 誠\*

Lecture of Prof. Aaron Aponick

- StackPhos: From Structural Curiosity to Enantioselective Catalysis -

Key Words : Phosphine Ligand, Chiral Ligand, Enantioselective Reaction, Axial Chirality

<開催時期>平成 30 年 3 月 13 日

<開催場所>大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻 C4-111 会議室

<講師>フロリダ大学 Aaron Aponick 教授

平成 30 年 3 月 13 日に大阪大学吹田キャンパス C4-111 会議室において、フロリダ大学から招聘した Aponick 教授の講演会を開催した。Aponick 教授はヘテロ芳香環を鍵とした新奇な軸不斉配位子の合成およびその配位子を用いた不斉反応の開発というオリジナリティーに溢れた研究を進めており、講演会会場は多くの教員と学生で満員であった。

現代医療に欠かせない医薬品の製造において不斉合成反応は重要な役割を担っており、新奇不斉配位子の開発がその発展にますます欠かせなくなっている。そのような背景の中、Aponick 教授はこれまでに無い新しいコンセプトに基づいて設計した不斉配位子の合成をおこなっており、その不斉配位子の構造・物性評価から新規不斉反応の開発に至るまでの最新の研究を発表された。講演では、 $\pi$ スタッキングにより増大した回転障壁により発現する軸不斉を鍵としたピアリアル骨格を有する新奇不斉リン配位子の設計指針から機能評価までを丁寧に説明された。また、その新規不斉配位子を用いた様々な不斉アルキル化反応の開発を紹介され、基礎研究か

ら応用までの一連の研究の流れをわかりやすく講演された。発表後には、多くの聴衆からの質問が相次いであり、活発な議論が展開された。また、講演会終了後に、報告者の研究室の数人の学生と交流してもらい、その学生たちにとっては海外のトップレベルの研究者と直接話すことのできた非常に貴重な経験となった。

そのほか、応用化学専攻の教員数名と個別に議論する時間をとり、お互いの研究内容の情報交換を行った。新しいアイデアの発想を得るような、有意義なものとなったことと思われる。

最後になりましたが、本講演会は生産技術振興協会の海外講師講演会奨励事業からのご支援を頂きました。関係各位に厚く御礼申し上げます。



自身の研究について講演する Aponick 教授



Aponick 教授と研究室メンバーの交流



Aaron Aponick

1976年2月生

University of Florida

Department of Chemistry

Associate Professor

PhD. 有機化学、有機金属化学

E-mail : aponick@chem.ufl.edu

\*講演会主催者 大阪大学大学院工学研究科 応用化学専攻 教授